

メモリアルデー休暇、 バースデー休暇、ボランティア休暇



六花亭製菓株式会社

総務部 渉外 課長
稲田 博一さん

企業プロフィール

- 事業内容：和洋菓子製造販売、美術館運営
- 従業員数：1,269名(2012年4月1現在)
- URL：<http://www.rokkatei.co.jp/>

「仕事も遊びも一生懸命」しっかり休んで、 しっかり仕事をする

実践！ こうすればできる！ こうすればのびる！

- ① 全社一丸となって取り組む
- ② 社員一人一人の声を聞く
- ③ 取得促進のための補助を支給する

休暇の取得促進=社業の発展促進

弊社の基本方針の最初に掲げているのが「おいしいお菓子を作ろう」というものです。菓子製造業としては当たり前なことですが、これを実現するのは実は簡単なことではありません。この方針を実践するためには「作り手が心身ともに健康でなければならない」という社長の考えがあり、これを反映する意味で、平成元年に年次有給休暇取得率100%という目標を設定しました。社長の号令のもと、各職場で協力して対応を進め、各人が年間計画を立てて取得日を決めたことで初年度から目標を達成し、以来23年連続で100%取得を継続しています。年次有給休暇取得がうまく運んだ背景には、長期休暇の取得を推進したことも大きく影響しています。年に1回、年次有給休暇を4日以上いれて1週間以上の長期休暇を計画的に取得することを義務付けています。

メモリアルデー休暇、バースデー休暇

「仕事も遊びも一生懸命」というスローガンがあるので、弊社の社員はよく休んで、リフレッシュしています。心身がリフレッシュされることで、仕事の効率化にもつながります。そうした中で、年次有給休暇以外にも休暇のチャンスを増やすために作ったのがメモリアルデー休暇です。子どもの誕生日、結婚記念日など、社員にとってのメモリアルデーに自由に1日休暇を取得することができます。年次有給休暇を合わせて連続休暇にする社員も多くいます。

バースデー休暇は本人の誕生日に休むことができるもので、共済会から1万円の祝い金が支給されます。

また、非日常体験をして私生活も充実させてほしいという思いから、独自の社内旅行制度もあります。社員が6人以上集まれば、社内旅行として申請できるもので、一人あたり年間20万円の補助金が支給されます。旅行にかかった費用の80%を会社が負担するもので、その上限を20万円に設定しています。正社員だけでなくパート社員も同様に利用できます。それぞれの年次有給休暇の範囲で年に何回企画してもよく、海外旅行に行く人たちも多いという、社員の利用頻度が高い制度です。

ボランティア休暇

東日本大震災の復興支援のために、2011年の5月に制定し、会社が派遣チームを募って6月に2チームを派遣しました。5日間の特別無給休暇となっています。元々、年に1日の特別有給休暇で対応するボランティア休暇はありましたが、今回の災害支援に限って急遽制定しました。災害派遣で石巻のボランティア作業に従事してもらったときには、毎日発行する社内報にボランティアコーナーを設けて、参加者からの報告を逐次掲載しました。



社内日刊新聞「六輪」

当社には「1人1日1情報」制度があり、パート社員を含めた全社員がその日の出来事、仕事の改善提案、お客様からのご注意、個人的な悩みなどを会社に伝えています。1日に集まる情報は700通ほどありますが、社長はその

すべてに目を通し、そのうちの120通ほどは写真つきで翌日の社内報「六輪」に掲載されます。メモリアルデー休暇やバースデー休暇を取得した社員から、休暇をどう過ごしたかについての報告が寄せられることもあります。ところどころに社長のコメントが入るので、重要な社内コミュニケーションツールとして機能しています。



洋生1課
美間 由起子さん
(ボランティア休暇、メモリアルデー休暇)

昨年の6月、5日間のボランティア休暇を取得して、石巻の復興支援に参加してきました。往復の時間を除き、実質3日間のボランティア活動に従事しました。震災が発生してから、ボランティアに行ってお手伝いしたいと思っていたのですが、普段からボランティア活動をしていたわけでもなく、個人ではどのようにして参加していいのかわかりませんでした。そんなときに会社で復興ボランティアを募集していることを知り、団体で行けるということで安心感もあり、参加することができました。年次有給休暇を取得してボランティアに参加するという方法もありますが、5日という長い期間の休みをとるのは難しい場合もあります。今回は、会社が定めた特別な休暇制度を利用しましたので、職

場での理解もありスムーズに休暇を取得することができました。

兵庫県出身なので、中学生のときに阪神淡路大震災を経験しており、今回の東北の震災は他人ごとには思えませんでした。ボランティアの最後の日、仮設住宅を1軒1軒まわって、弊社のお菓子を配布しました。現地からは毎日、「1人1日1情報」を書いて送っていましたので、社内の人たちにボランティアの活動内容が伝えられていました。

メモリアルデー休暇は、毎年実家に帰って、甲子園での高校野球観戦にあてています。メモリアルデー休暇1日に年次有給休暇をつなげることで、1週間の長期休暇にして、しっかり休んでいます。甲子園には入社以来毎年でかけており、「1人1日1情報」で報告しているので、私の高校野球好きは社内でも有名らしいです。

VOICE